

## 専攻科の外部評価結果について

平成28年4月1日に施行された「学校教育法等の一部を改正する法律」により、高等学校等の専攻科修了生の大学への編入学制度が創設されました。この件につき、文部科学省からの通知により、専攻科の外部評価の実施及びその公表を行うことが必要となり、本校看護専攻科においても以下の通り、自己評価及び外部評価を実施し、本校看護専攻科の教育目標の達成状況や取り組みの適切さ等について評価いただきました。

### <外部評価>

日時：令和元年7月3日（水） 14：00～16：00

評価委員：九州大学 薬学研究院 准教授 島添隆雄 氏  
西南女学院大学 保健福祉学部看護学科 講師 一期崎 直美 氏  
今津赤十字病院 看護部長 白木 潤子 氏

内容：博多高等学校看護専攻科 学校自己評価および外部評価結果

## 平成30年度 学校自己評価および学校関係者評価結果(看護専攻科)

大目標	「確かな知識と技術」および「気づき考え行動できる」力を身に付けた、社会に貢献できる看護師を養成する5年一貫看護教育校となる。
-----	--

平成30年度目標	1. コミュニケーション力、レジリエンスの強化(「気づき、考え、行動する」を掲げ、自律した生徒の育成) 2. 基礎学力の向上、確かな知識・技術の向上 3. 5Sの徹底
----------	---

番号	具体的方策	自己評価		学校関係者評価
		成果	課題及び今後の方策	
1	<p>&lt;5学年の成長段階に合わせたコミュニケーションスキル、レジリエンス強化のための対策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>九州大学総合臨床心理センター臨床心理士の先生方や学校カウンセラーへ相談しながら、コミュニケーション講座(土曜講座)を開設する。</li> <li>臨地実習前の学習において、各学年の段階に応じたマナー研修、KYT、OSCEなどを実施し、生徒学生の不安を軽減できるように関わっていく。</li> <li>個人面談の実施</li> <li>専攻科において、博多メディカル専門学校との協働学習、グループワークの実施</li> <li>社会人基礎力の調査</li> </ul>	<p>平成30年度よりコミュニケーション講座を導入したことで他者との関り方を学ぶ機会となり、自己の振り返りに繋がった。専攻科においては、看護技術習得度を評価し、臨地実習に向けての看護実践能力を高めること、自己課題を明確にし、主体的な学びの姿勢を習得する目的でOSCEを実施した。学生のアンケートの結果よりOSCE後『自己課題の明確化ができたか』、『前向きに実習に臨めたか』の項目は、「そう思う」「大変そう思う」の項目が70～80%と高く評価していた。本校の関連専門学校(博多メディカル専門学校)と連携し、臨床工学技士科とは腎不全、歯科衛生士科については、誤嚥性肺炎の協働学習を行った。お互いに医療職を目指す学生としての意識の向上に繋がった。社会人基礎力については、進級後専攻科1年生(4月)と専攻科2年生(10月)にアンケートを取った結果、『倫理性』、『チームで働く力』、『考え抜く力』、『知識力』、『技術力』、『前に踏み出す力』全てにおいて自己評価が上昇していた。専攻科1年生(進級時)から専攻科2年生(実習終了後)に大きく変化が見られた。その中でも小項目の『ストレスコントロール力』、『柔軟性』、『状況把握力』、『主体性』、『働きかけ力』、『傾聴力』、『課題発見力』の自己評価が特に上昇していた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>九州大学総合臨床心理センター臨床心理士の先生方や学校カウンセラーへ相談しながら、コミュニケーション講座(土曜講座)の継続、および評価をしていく。</li> <li>臨地実習前の学習において、各学年の段階に応じたマナー研修、KYT、OSCEなどを実施し、生徒学生の不安を軽減し、やる気を出せるよう関わっていく。</li> <li>さまざまな講演会や研修の後、その感想を共有できる時間を設ける。(クラスの中で自分の思いや意見を伝える機会をつくる。)</li> <li>個人面談の実施</li> <li>専攻科において、博多メディカル専門学校との協働学習、グループワークの実施</li> <li>実習前のOSCEを継続し、学生の看護技術習熟度を評価し、その学年に合わせた課題を明確にし、指導に繋げていく。</li> <li>社会人基礎力のアンケートを実施し、社会にでる前段階の自分の成長を自己評価し、課題を明確にしていく。できていることを認め自己効力感に繋げる。</li> </ul>	<p>&lt;コミュニケーション講座について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーション講座の企画は、とても良い内容だと思う。最近では、実習や就職においても、規律を守り、素直で誠実さを持っている学生が多いが、自己効力感が低い学生も多いため、このようなコミュニケーションの授業を入れていく必要性はある。</li> <li>コミュニケーションの学習の中でも気を配り、周りの状況や相手の思いを汲み取っていく力が必要ではないか。また、聞くだけでなく相手に伝える力をもっと必要と思う。自分の考えをまとめて、他の人に伝える方法を学ぶためにも、グループワークやリフレクション、カンファレンス、ワーキングの場で、話をすることを育成するためのプログラムを意図的に作っていく必要がある。</li> <li>今後は、コミュニケーションの学習の中でも、他者の意見を聞き入れる、受け入れる、相手にわかるように自分の意見を伝えることができたか、欲しい情報をもらえるような伝え方をしたかが社会人になるためには必要となってくる。相手にどう伝わったかの確認ができないとズレたコミュニケーションになってしまう。社会に出て確かな情報を自分から取りに行くことが現場では必要となるので訓練が必要である。</li> <li>&lt;自己効力感(レジリエンス)の強化のための対策について&gt;</li> <li>実習中の失敗、小さな失敗も学びに繋げる経験をさせる。スマホ・無音時代の学生であるため、生活体験の経験をさせ、その中でも特に五感を使って感じる演習を通して(見て、触って、聴いて)感じさせる経験が必要である。そのような機会教育を増やすプログラムを入れていくことが大切である。</li> </ul>
		<p>専攻科の実習アンケート結果(専攻科2年生)専攻科1年次より2年次に『技術の実践』、『看護師を目指す気持ち』が上昇し、『知識の理解』、『看護師を目指す気持ち』『有意義な実習だったかの』の項目は、8割以上の学生が平均点4以上と高く、臨地実習における学びが特に大きかったといえる。(専攻科1年生)今年度の実習出席率が100%であった。また、前年度の学生アンケートと比較すると本校の課題であった『事前学習の活用』、『意欲の向上』、『自己課題に対する意識』に関する項目が上昇していた。しかし、学生の習熟度には差があるため、各成長発達段階に合わせ、教育内容・取組を評価し改善点を明確にしていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習後のアンケートの実施を継続し、学生の実習に対する満足度、学びの内容、知識・技術に対する自己評価の変化や思いを把握し課題を明確化していく。</li> </ul>	
<p>&lt;縦割り班活動の確立&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>看護科、専攻科の生徒会として、組織を確立していく。[総リーダー(5年)、副リーダー(4年)、看護科リーダー(3年生徒会副会長、環境委員長、風紀委員長、図書委員長、学習委員長)を育ていく。]また、生徒学生が主体的に活動できるよう、準備～実施、反省、評価まで生徒学生自ら行動できるよう助言していく。</li> </ul>	<p>縦割り班活動の確立(年間スケジュール、役割表の立案)年間スケジュール、役割表の作成が年度当初よりしっかりとでき、リーダーシップをとれる生徒学生が増えてきた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>縦割り班活動においてリーダーシップをとれる生徒、学生が育ってきている一方でメンバーシップについての指導は課題が残っているため、生徒、学生全体の意識を高める。</li> <li>リーダーの育成およびリーダー会の内容検討</li> </ul>		
<p>&lt;停学者ゼロを目指す&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶の徹底、1年次より基本的生活習慣の確立を考える。特にSNSについて、講義していく。アルバイトは許可を取ることを徹底するが、許可後も学習状況や生活状況に問題が生じた場合は、許可を取り下げることとする。</li> </ul>	<p>専攻科1年生では2名、2年生では5名の退学者、原級留置者1名が出た。新たに自分の目標が決まり、進路変更や実習でのつまづきから退学に至った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習に臨む姿勢や出席率の重要性を本人および保護者へ話し、体調管理に留意するよう指導する。</li> <li>実習病院に対し、学校の教育方針および生徒学生の状況を説明し、教員と共にサポートしていただくよう協力をお願いする。</li> </ul>		
<p>&lt;出席率99.8%以上を目指す&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実習に臨む姿勢や出席率の重要性を本人および保護者へ話し、体調管理に留意するよう指導する。</li> <li>実習病院に対し、学校の教育方針および生徒学生の状況を説明し、教員と共にサポートしていただくよう協力をお願いする。</li> </ul>	<p>実習施設の看護部長、指導者を招待し、学習成果発表会を行った。本校の教育の取り組みや学生の看護研究発表会で選出された看護研究3例と各領域ごとにケーススタディを行い、実習での学びを発表した。学生の学びの内容や質疑応答の返答の様子を拝見され、実習施設の方々よりその姿勢に対して高く評価を受けた。本校での取り組みや国家試験の傾向を伝えたことで現段階の学生の状況を把握してもらうことに繋がった。発表会後のアンケートに於いても「参加してよかった。」や「本校の教育を理解でき、実習でのサポートや学生指導に繋がりたい。」などの意見があった。また、「卒業後の新人教育にもつなげていきたい。」との意見もあった。</p>		<p>&lt;実習施設との連携&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>博多高等学校の看護専攻科の教員と実習施設との連携ができています。実習の中では、先生たちが入ることで学生にもしっかり指導が行き届いていると感じています。</li> <li>学習成果発表会は、学校の取り組みや実習施設での学生の取り組みがよくまとめられていた。学校と現場とを繋ぐという形で是非続けてほしい。実習指導者や学生を育てていく卒業生なども出席させたいと思う。</li> </ul>	

<p>・博多メディカル専門学校との合同実習および医療機器についての学習、卒業記念講演会の開催(義手の看護師であり北京ロンドンパラリンピック競泳日本代表の伊藤真波さんの講演)NICU見学、感染症講義、障害児看護講演および施設見学、卒業生の講話、放射線講義(九州エネルギー講話会主催⇒熊本大学大学院 医学教育部 教授)、LGBTを理解する講話、国際理解教育 NGO学校から世界のミカタを考える会代表)</p>	<p>昨年度卒業記念講演として義手の看護師パラリンピック競泳の日本代表の伊藤真波さんの講話を聴講して、つらいことがあっても看護師になることをあきらめないという気持ちを再確認した学生が多く見られた。現在の日本の医療の動向を踏まえて、放射線やLGBTの講演を開催し、学生の視野を広げ、医療職として必要とされる知識の向上に繋がった。</p>																																												
<p>・今後の国家試験で求められる判断力、優先順位の捉え方などにおいてはますます普通教科の重要性、基礎学力の定着が大切であり、次年度に向けてしっかりと検討していく必要がある。</p>	<p>国家試験については、第107回看護師国家試験の出題基準の変更が行われたため、各科目・領域ごとの出題基準の分析を行った。国家試験対策12月の模試においては、基礎学力の定着がみられ、偏差値60、全国17位/678校中まで上昇した。第108回看護師国家試験に62名全員が合格した。</p>	<p>・各学期毎の普通教科担当学会議実施(家庭学習習慣の確立、家庭学習の内容の検討)</p>	<p>&lt;国家試験対策&gt; ・医療職を目指す学生との国家試験対策として合同に解剖生理の試験を行い、競い合うことでの効果を期待したい。</p>																																										
<p>・国家試験合格は勿論、大学編入を見据えた専攻科授業の検討、国家試験問題の検証、実習中のアセスメントの強化、データ分析など過去問で基礎を押さえた上で文章力、読解力を向上させて、実際の状況を考えられるように指導していく。 ・国家試験対策として、博多メディカル専門学校との合同模試の実施</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>2018年</th> <th></th> <th></th> <th>偏差値</th> <th>県内順位</th> <th>全国順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>4月</td> <td>学研チャレンジ</td> <td>51.4</td> <td>7位/29校</td> <td>133位/426校</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>11月3日</td> <td>東京アカデミー</td> <td>54</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>12月1日</td> <td>メディカコンクール</td> <td>60.8</td> <td></td> <td>15位/279校</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>12月26日</td> <td>東京アカデミー</td> <td>56.3</td> <td>3位/22校</td> <td>23位/396校</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>1月7日</td> <td>学研チャレンジ</td> <td>58.2</td> <td>1位/37校</td> <td>17位/698校</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>1月15日</td> <td>メディカコンクール</td> <td>56.9</td> <td></td> <td>59位/375校</td> </tr> </tbody> </table>	2018年			偏差値	県内順位	全国順位	第1回	4月	学研チャレンジ	51.4	7位/29校	133位/426校	第2回	11月3日	東京アカデミー	54			第2回	12月1日	メディカコンクール	60.8		15位/279校	第3回	12月26日	東京アカデミー	56.3	3位/22校	23位/396校	第3回	1月7日	学研チャレンジ	58.2	1位/37校	17位/698校	第3回	1月15日	メディカコンクール	56.9		59位/375校	<p>・今後は、引き続き出題基準が変更になってからの過去3年分の問題傾向の出題の分析を行い、その内容を基準に対策を計画しスケジュールを立てる。</p>	
2018年			偏差値	県内順位	全国順位																																								
第1回	4月	学研チャレンジ	51.4	7位/29校	133位/426校																																								
第2回	11月3日	東京アカデミー	54																																										
第2回	12月1日	メディカコンクール	60.8		15位/279校																																								
第3回	12月26日	東京アカデミー	56.3	3位/22校	23位/396校																																								
第3回	1月7日	学研チャレンジ	58.2	1位/37校	17位/698校																																								
第3回	1月15日	メディカコンクール	56.9		59位/375校																																								
<p>2 ・高校(看護教科)、専攻科ともに年度当初にシラバスを提示し、活用する。</p>	<p>現在シラバスを使用し、専攻科進級時に学生に提示し講義の内容、進度や単位数を明確にし授業の目的・到達目標を繰り返し確認することで学習の効果が繋がっている。授業の雰囲気を与えることで学習の手立てとなっている。</p>																																												
<p>・ICT教育(タブレット導入)の推進、まず教員が学習する。(ロイノートなど活用している教員の授業を参観する。)</p>	<p>専門学校とのグループワークの際にロイノートを使用した。学生の意見をまとめやすく、進行状況の確認ができるため学生の学習状況の把握に役立った。今後は、専攻科教員がロイノートの学内講習会に参加し、教員側の技術の習得が必要である。臨床での事象を、学習要素に焦点化し、再現し学生同士が医療行為やケアを経験し振り返り、検証し専門的な知識・技術・態度の統合がはかる目的でシミュレーション教育を取り入れていく予定である。指導案を作成し、看護技術、実習前指導に取り入れる。</p>	<p>・ICT教育(タブレット導入)の推進、まず教員が学習する。(ロイノートなど活用している教員の授業を参観する。)  ・実際の臨床現場、場面を模擬的に再現した学習環境を提供し、知識、技術、態度の統合およびチームコミュニケーションの向上や意思決定スキルを身に付ける目的としてシミュレーション教育を導入する。各学年に応じた内容(シナリオ)を検討し、構築する。</p>																																											
<p>・大学編入希望学生に向けて、小論文「問題理解力」「文章構成力」「論理性」「表現力」「知識」や面接「積極性」「意欲」「動機」、英語力、専門教科の学習に対し、指導していく。</p>	<p>編入の希望は、なかったが専攻科進級後から就職試験・助産師学校受験のために小論文の指導を行った。英語に関しても看護・医療分野の講義を中心に行った。また、平成30年度は、さわ研究所主催の作文コンクールにて優秀団体賞を受賞した。4名の学生が助産師学校に希望し、進学した。</p>	<p>・今後は、編入希望者のためにも専門教科、医学英語、小論文の指導の学習スケジュールを組み立て効果的な指導に繋げる。</p>																																											
<p>・専攻科実習における評価方法の検討(ルーブリック評価の導入)</p>	<p>成人看護学Iより評価の客観性、合否判定に偏る総括的評価、学生を形成的に評価するためにルーブリック評価を導入した。学生の意見としては、項目ごとの到達度が明確になり、実習で求められる視点を再確認することができたとの意見があった。</p>	<p>・専攻科実習におけるルーブリック評価導入後の検証  ・今後は、全領域(母性・在宅・精神・小児・在宅・老年・統合領域)のルーブリック評価表を使用し、到達度の明確化を行う。  ・看護技術の学年毎の基本事項の統一(評価基準チェックリストの作成)ファイリングの方法の確立</p>	<p>&lt;ルーブリック評価の必要性&gt; ・ルーブリック評価は、試験の点数だけでなく、学生の姿勢や態度を見る意味でも重要になってくる。</p>																																										
<p>3 &lt;縦割り班での清掃&gt; ・清掃区域、担当割、教員監督を見直し、実施する。 ・環境委員会と共同で活動内容を検討する。 &lt;職員室の5Sの徹底&gt; ・1回/月(毎月23日)職員室クレンジーとし、整理整頓の実施 ・清掃区域の人数調整を年度はじめにしっかりとしておく。</p>	<p>・机上やカウンセラーの整理はそれぞれの教員が心掛けていたが、個人によって差があった。 ・縦割り班の活動で、上級生から下級生への指導の実施。 ・環境委員会の取り組みとして、掃除用具入れの整理・掃除チェック表の作成や点検 ・縦割り班での清掃活動が定着してきており、他学年との良いコミュニケーションの時間となっているが、学年の意識や場所により十分な清掃ができていない点がある。清掃の目的、目標を生徒学生にしっかり意識させ、環境委員会とも共同で活動内容を検討していく必要がある。</p>	<p>・環境委員活動の徹底(縦割り清掃のトイレ掃除の強化) ・実習期間中の清掃区域の監督の検討 ・清掃場所の変更に係る申し送り ・職員室の整理整頓の徹底 ・教科準備室の活用方法の検討 ・日頃の教室の整理整頓</p>																																											

## 大学編入学に関する条件

	大学に編入学できる高等学校専攻科 基準 (文部科学省 告示)	博多高等学校 看護専攻科
入学者資格	高等学校 中等教育学校 特別支援学校高等部卒業生	高等学校卒業
修業年限	2年以上	2年間
年間授業時数 (単位時間)	原則800時間以上	1年次 1405時間 2年次 730時間
総授業時数 (単位時間)	全課程で1700時間以上	2135時間
授業時間の 単位への換算	45時間の学修を1単位として、 講義・演習15～30授業時間 実験・実習30～45授業時間 の間で専攻科が定める時間数 を1単位とする。	講義1単位 15～30時間 実験・実習1単位 30～45時間 臨地実習1単位 40～45時間
教員資格	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修士の学位を有する者</li> <li>・学士の学位を有する者で、2年以上の教育、研究又は技術に関する業務の経験者</li> <li>・2年以上の高校主幹教諭、指導教諭、教諭の経験者</li> <li>・短期大学士の学位(準学士)を有する者で4年以上の教育、研究又は技術に関する業務の経験者</li> <li>・専修学校専門課程修了者で、当該課程の修業年限と教育、研究又は技術に関する業務の経験を通算して6年以上となる者</li> <li>・高等学校専攻科修了者で、当該課程の修業年限と教育、研究又は技術に関する業務の経験を通算して6年以上となる者</li> <li>・特定の分野について、特に優れた知識、技術、技能及び経験を有する者</li> <li>・その他上記に掲げる者と同等以上の能力があると認められる者</li> </ul>	専攻科教諭8名 <内訳>部長1名 主任1名 教諭6名  学士以上の学位 3名 短大・専門学校等 5名
教員数	80人まで 3人 81～200人まで 4～6人 201～600人 7～14人 601人以上 15人以上 *うち半数以上が専任教員	生徒数 127名 教員数 8名 (専任教員 8名)
校舎面積	専用面積 $260\text{m}^2 + 3 \times (\text{生徒総定員} - 40)$ 工、農、医療系の場合 *ただし特別の事情があり教育上支障がない場合はこの限りではない。	看護科・看護専攻科棟 $2,990.57\text{m}^2$ 専攻科専用面積 $1,220.93\text{m}^2$ 基準面積 $260\text{m}^2 + 3 \times (120 - 40) = 500\text{m}^2$
施設	専用の教室 *教員研究室等は努力義務  *職員室、事務室、保健室、図書室は本科と共用可能なため専用のものの設置を求めない。	看護科・看護専攻科棟 講堂、合同教室2、実習室、教室4 *相談室、医機室、講師控室、職員室 教科準備室は看護科と共用 *事務室、保健室、図書室、礼法室、音楽室、体育館、OA室は本科と共用